



みどりの風

令和2年2月3日発行
校報 第571号
〔みどりの風 第114号〕
練馬区立関町北小学校

世界幸福度ランキングより

－ COACHINGの手法とは －

校長 大野 泰弘

毎年3月に、国連の持続可能な開発ソリューションネットワーク〔SDSN〕が「世界幸福度報告書」を発表しています。その調査項目は、各国の国民が感じる「幸福感」に加えて、GDP、平均余命、寛大さ、自由度等々の要素をもとに「その国の幸福度」を計っているのだそうです。

その報告書には、「世界幸福度ランキング」という項目もあって、第1位は2年連続でフィンランド、以下、デンマーク、ノルウェー、アイスランド、オランダと続き、わが国日本はと言うと、残念なことに、前年度の54位からさらに58位と4つ順位を落としたとのことでした。

実は、昨年末にこの記事にふれたのですが、私に関心をもったのは、上位の国々がいずれも北欧諸国であることと、特に、オランダやフィンランドでは子どもの教育に「コーチング」の手法が盛んに取り入れられているということでした。

今やわが国でも企業における人材育成に活用されることが多いコーチングですから、ご存じの方も多いかと存じますが、そもそもコーチングの基本スキルとは、例えば、専門書によると、次のように示されています。

① 傾聴する

・相手の話を「聴く」こと。笑顔で接し、相手の思いや考えを引き出すことに努める。そして、相手の話を論理的に聞き取り、適切な質問につなげていくようにする。

② 質問する

・問いたずら、詰問するのではなく、相手が自ら問いの答えを探し出せるように柔らかく尋ねる。質問するときには、自分の考えや価値観を押し付けるのではなく、相手の話を肯定的に受け止めることを重視する。

③ 評価〔承認〕する

・評価〔承認〕に際しては、相手が納得するように具体的・客観的な事実をもとに評価したり、相手が次の段階に向けて気持ちが前に進むような声掛けをしたりする。「あなたメッセージ」だけでなく、「わたしメッセージ」も織り込みながら、相手の存在を、変化の過程を、努力の成果を認め励ますようにする。

このように、コーチングの原則は、相手の話を丁寧に聞き、適切な質問をし、なりたい自分なり、達成したい目標なりを「相手に気付かせる」ことにありますが、このような手法を学校では「教育コーチング」、家庭では「子育てコーチング」として活用していくことによって、オランダでは、ほんの一例ですが、

- 多くの学校で、子どもたちは規律に縛られず、自らやるべきことを考え、実行する習慣が身に付いている。
- 学習面では、一斉学習よりも個別学習のスタイルが確立し、自ら立てた課題に自発的に取り組んでいる。
- 自分の意見を述べ、承認される経験を多くしているため、自分の意見に自信がもて、素直に伝えることができる。
- 友達や教師との対話を繰り返し行い、他者の意見に耳を傾ける経験が豊かなので、他人に寛容・親切である。
- 大人と子どもが「人対人」として対等な関係を築き、子どもの自主性を信じ、そっと見守る姿勢をとることが多い。
- トライアンドエラーをすることをよしとする人が多いので、間違えても恥ずかしくならず、自己肯定感が高い。

という特徴がみられるのだそうです。

オランダには40年以上ものコーチングの歴史があり、わが国とは制度や国民性等も異なるので、コーチングをしたからといってすぐに効果が表れるとは限りませんが、コーチングの手法には、学級づくりや児童理解のベースともなる重要な要素がいくつも含まれています。そこで、この手法を学び、それを従来の教育実践に取り入れていくことは大切であると思われるので、今後、本校でも、コーチングについて研修を深める機会をもっていきたいと考えています。

さて、来月には今年の「世界幸福度ランキング」が発表される予定ですが、日本の順位はどうなっているのでしょうか。国のレベルはともかく、本校の子どもたちの幸福度が高まるように「TEACH」と「COACH」を適切に使い分けながら、今後も、子どもたち一人一人の心に寄り添った教育実践ができるように努めてまいりたいと存じます。